

# 【令和3年度 春の企画展】 4月23日(金)～6月6日(日)

## シリーズ後藤新平人脈考④ 池田 宏

各企画展と併催で実施している「シリーズ後藤新平人脈考」は、今回で4回目。都市研究会発足メンバーで、新平東京市長時代の三助役の一人となり、帝都復興院では「計画局長」として辣腕を揮った「池田宏」を紹介しています。

### 【池田 宏】



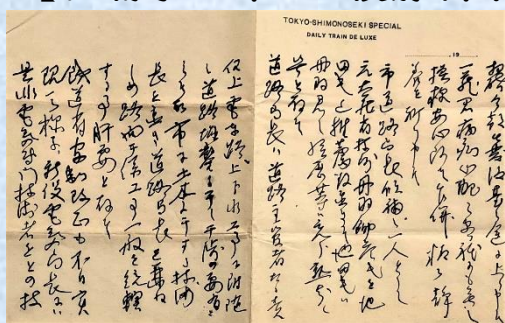
静岡出身。1881(明治14)年、旧幕臣・郡長・池田忠一の長男として生まれる。旧制静岡中・東京府立一中・一高を経て、1905(明治38)年京都帝大法科大学法律学科卒。内務省に入り、1911(明治44)年本省の土木局道路課長となる。13年からヨーロッパに遊学。特にドイツの都市計画制度から大きな影響を受けた。帰国後、17(大正6)年後藤内相により創設された都市計画課長に就任、19年初の都市計画法を起草した。後藤が会長であった都市研究会の中心メンバーのひとり。20年後藤新平が東京市長になると三助役の一人として引き抜かれる。市政調査会メンバー。23年関東大震災のとき、内務省社会局長官から再度後藤に引き抜かれ計画局長となり、復興計画案作成に従事。その後、京都府知事を経て26年(大正15)年神奈川県知事となり、葉山御用邸で大正天皇の看護にあたる。29(昭和4)年退官。専修大、大阪商大、京大で教鞭をとり、また市政調査会理事などを歴任。1939(昭和14)年、死去。

### 【東京市職制分課規定改正要領】



東京市に入ってたちまち伯の眼に映じたことは、その制度の乱雑とこれに伴う適用の不完全なことであった。市役所内部の構成そのものは甚だ非科学的にして、相互の連絡統制が欠如せるのみならず、監督官庁たる府との関係もすこぶる不備であった。その財政は「底なし井戸に金を投ずる」ごときでいたらくであった。

### 【杉浦宗三郎から後藤新平への書簡】



市道路局長候補の一人として元大蔵省技師丹羽氏を池田氏に推薦したこと。道路局長の職について、鉄道省の官制改正について。

#### ※杉浦宗三郎

香川出身。土木技術者。帝大土木工学科卒。雨森宗益の三男。後に杉浦つねの養子となる。1894年日本鉄道会社に入り、社命で欧米の鉄道界を視察。寺内内閣内相兼鉄道院総裁後藤新平のもと、鉄道院工務局長を務める。鉄道の広軌化再調査に入り、線路関係の具体案を作成。次女の春子は、後藤新平の長男一蔵の妻。

### 【新聞切り抜きと雑誌】(池田宏所蔵)



【地震内閣当時の答弁始末】

【お化けを見た話】

左の「答弁始末」には、「政友会の小川平吉が、『後藤伯は華族であり、國務大臣でありながら、無政府主義を奉ずる大杉栄に対して大金を手交したのは不都合である』とし、議会は一大緊張を現出した。流石の後藤も之の答弁には非常に窮したが、筆者石塚の進言により危機を脱した。」ことが記されている。

右の「お化けを見た話」には、「伯が某社会主義者に金を与えたと云ふ話の記事あり 菊池忠三郎翁に聞くを要す」と記されたメモが残されており、「大杉栄が、後藤新平(を匂わせる人物)



から大金三百円を無心した話」が掲載されている。無心で新調した伊藤野枝の着物を見た堀保子は、………………。 (詳細は、「しおり」に掲載)

